

熊石もり情報



国民の森林・国有林

第9号
平成19年1月

枝打ちを行いました

左の写真はスギ林の枝打ち前後のものです。枝打ちとは、まだ成長途中にある木の、下の不要な枝を切り落とし、枝の跡である節がないきれいな材木を生産するために行います。また、林の中の風通しがよくなり、日がよく当たるようになって、病虫害などから木を守ることもになります。



枝打ち前



枝打ち後

枝打ち後は木の太さが直径8~10cmになった頃から行います。下

冬芽の話

今年は暖冬だと言われ、雪が少なく過ごしやすい反面、昨今の気候変動に危機を感じている方も少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか？

そんな中で、木々はまたいつもと変わりなく葉を落とし、冬芽と言われる休眠芽を付けています。冬になって葉のない時期に木の枝先を観察してみると、そこにはしっかりとした堅い芽が付いている



枝打ち中

発行 檜山森林管理署熊石森林事務所
住所 北海道八雲町熊石雲石町180-3
電話 01398-2-3056

のがわかります。これを冬芽といい、冬の寒い時期にはこうして殻のように堅い芽をつくり、栄養を蓄えておき、眠っているのです。そして待ちわびた春が近づいてくるとこれが徐々に大きくなって新緑の葉を出します。

この冬芽も木の種類によって異なり、様々な形をしています。大きいものや小さいもの、毛が生えているものやツルツルとしているものなど、いろいろな顔をしており、見比べてみるのも楽しいものです。



インターネットに掲載されました

この「熊石もり情報」が檜山森林管理署のホームページに掲載されています。是非アクセスしてみてください。

檜山森林管理署ホームページ

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kanrisho/hiyama/index.html>

北海道森林管理局



檜山森林管理署



熊石もり情報



国民の森林・国有林

第11号
平成19年6月

発行 檜山森林管理署熊石森林事務所
住所 北海道八雲町熊石雲石町180-3
電話 01398-2-3056

下刈りを行いました

昨年赤岳でトドマツの植栽を行いました。そこで今月は下刈りを行いました。植えたばかりの苗はまだ小さく、周りの草や笹が大きくなるとすぐに埋もれてしまい、場合によっては枯れてしまいます。そこで、それらを刈ることによって、小さな苗に光を与え、成長を促すのです。

下の写真は下刈り前後のものです。ここでは草丈が人の背丈くらいまで大きくなっていました。これでは高さ30cmほどしかない苗は全然生長



下刈り後



下刈り前

できませんね。刈った後はきれいになり、光が射して喜んでいました。

まだ小さな苗はこれから何年もかけて大きく成長するに従って、多くの二酸化炭素を吸収するので、地球温暖化防止に役立ちます。きちんと手入れをして大切に育てていきたいですね。

フラワーソンに参加しました

6月16日～17日に北海道新聞社主催のフラワーソンが開催されました。これは全道で5年に一度、6月中旬に行われる花の開花調査で、今回が3回目になります。私は16日のみの参加でしたが、「クマウシふるさと清流の会」の方々と一緒に参加し、西浜林道を歩きながら、花の開花状況を調べていきました。タンポポの仲間や見分けるのが難しいハコベ



北海道フラワーソン 2007

熊石花紀行

夏が近づいたことを感じさせてくれる花です。高さ50～70cmで、鮮やかなオレンジ色が目立ちます。海岸沿いを通るといたるところで目にします。年によって咲き方にムラがあるようですが、山地や湿原で一面に咲いているとても綺麗です。



エゾカンゾウ

ユリ科

の仲間、帰化植物のマツヨイセンノウ、まだつぼみのクルマユリなど、多くの種類の花を観察することができました。普段から見慣れた何気ない林道もよく見ながら歩いてみると実に多くの種類の植物が生息していることが分かります。

こうして継続して調査をしていくと、花の開花時期の移り変わりが分かります。その年の気候によって、花が終わっていたり、以前はつぼみだった花がもう咲いていたりします。大きな気候の変動は花に影響し、それを利用する虫や鳥にも影響を及ぼします。そして生態系への悪影響に繋がるとされます。ちょっとした変化に気付くことが大事なのではないでしょうか。

熊石もり情報

国民の森林・国有林

第12号
平成19年9月

発行 檜山森林管理署熊石森林事務所
住所 北海道八雲町熊石雲石町180-3
電話 01398-2-3056

山にはいるときは

秋になり、初冠雪や紅葉の情報が聞かれるようになり、キノコ採りや紅葉ハイキングで山に入る機会が増えてくると思います。

キノコ採りでは、食用かどうかをよく見極め、疑わしいものは食べないようにしてください。

また、今はヒグマの出没も増えてくる時期でもあります。冬眠前で食糧を求めて行動範囲も広くなり、出会う危険性が高まります。山に入る際には次のことに心がけ、ヒグマとの事故を起こさないように気を付けましょう。

- ① 熊鈴など音の鳴る物を携帯する
- ② 一人では山には入らない
- ③ 食べ物を山に残しておかない
- ④ 事前に出没情報を確認しておく



特定外来生物 オオハングンソウ

この写真の花は夏に道ばたなどでたくさん咲いているのがよく見かけられます。この花は「オオハングンソウ」といい、草丈が2mにもなり、大群落を作ります。北アメリカ原産で明治時代に園芸植物として、日本に導入されました。



しかし、この花は繁殖力が非常に強く、各地で在来植物を圧迫して希少種など本来の生態系に深刻な悪影響を及ぼすことがあります。そのため、外来生物法により「特定外来生物」に指定され、栽培や販売、譲渡などが原則禁止となり、拡大防止の措置が取られています。日光など国内の貴重な湿原などで繁茂し、大規模な駆除作戦が展開されているところもあります。人間の勝手に持ち込まれた花ですが、結局駆除しなければなりません。それは持ち込むよりもずっと多くの費用と労力を要するのです。

木づかい推進月間

十月は「木づかい推進月間」です。これは地球温暖化防止対策の一環として平成十七年度に林野庁が実施し、国産材の利用拡大を推進するための国民運動です。

身近にある国産材を利用することで林業の活性化に繋がります。間伐が進められ、二酸化炭素を多く吸収する健全な森林を育てることに繋がります。森林は守るだけでなく、上手に利用していくことが必要とされています。



熊石花紀行

エゾコンギク

キク科

秋の道ばたや山中の草地でよく見かけられる薄い紫色をした花です。野にある紺色の菊なのでノコンギクと名付けられました。普通は紫色ですが、たまに白色のものも見かけます。初秋に咲くので、そっと秋の気配を運んでくれる花ですね。



熊石もり情報

国民の森林・国有林

第13号
平成19年10月

発行 熊石森林管理署熊石森林事務所
住所 二海郡八雲町熊石雲石町180-3
電話 01398-2-3056

来年度の事業予定地を

調査しました

十一月に入り、最近
は朝がグツと寒くなり、
そろそろ初雪が降りそ
うな気候になってしま
した。路面状況も変わ
りやすくなり、車の運
転にはますます気をつ
けなければなりません
ね。



平地区の造林予定地

十月は平成20年
度に事業を行う予定
の箇所を調査を行
いました。
赤岳地区と平地区
にある台風被害の跡
地4箇所を地帯え・植
付けを行うため、傾斜
や植生などを調べま



赤岳地区の造林予定地

した。また、造林予
定地を確定し、面積
を出すためにコンパ
スなどの測量器具を
使って周囲の測量を
行いました。今回の
箇所は赤岳地区で6
83ha、平地区で2
20haでした。どち
らの箇所でもha当
たり3,000本のトドマツを植付けする予定です。
そのため全部で27,090本のトドマツが来年植え
られることになります。
また、スギの若い造林地へ行き、幹の下の方に
ある枝を切り落とす枝打ちを行うことが適切かどう
かを調査しました。その結果、枝打ちは相沼地区と
冷水地区において7箇所11.34haを選定しまし
た。
次に、昨年植え付けたトドマツの造林地5.22
haで笹などの下草を刈る下刈りは木が大きく伸
びるまでのあと数年間は毎年行う予定なので同様
に調査を行いました。



測量を行う森林官

特定外来生物 セイヨウオオマルハナバチ

前回、特定外来生物のオオハングソウについて
述べましたが、今回も引き続き特定外来生物のお
話です。

今回はセイヨウオオマルハナバチです。このハチは
トマトのハウス栽培などで安全な農作物を作るため
受粉用の農業資材としてヨーロッパから導入された
非常に有益な虫です。しかし、ハウスから逃げ出し
たり、栽培が終わったあとに放置されたりした個
体が野生化して繁殖し、生態系へ害を及ぼしてい
ることが報告されています。自然の花は在来種のエ
ゾオオマルハナバチなどに依
存して受粉しているもの
がいますが、セイヨウハチが増え
て来ると在来種のハチが減
り、受粉できなくなつてし
まい、繁殖に影響を与えま
す。

人間に有益でも他国か
ら持ち込んだ生物は思わ
ぬ害を与えることもある
のです。ちなみにセイヨウ
ハチは在来種と比べるとお尻
が白いのが特徴です。身
近にいるかもしれないの
で探してみてください。



エゾオオマルハナバチ



セイヨウオオマルハナバチ